



平右衛門に導かれてフェスタ成功

6月6日午後、川崎平右衛門フェスタin瑞穂市を開催し、盛会裏に終了した。川崎平右衛門は八代将軍・徳川吉宗による享保の改革のいっかんである武蔵野新田開発を成功に導いた立役者である。押立村(現府中市)の名主で、私財を投じて貧民の救済や土地柄に合った栗の栽培を先導。地域の農民の信望も厚いことから、開発が停滞していた武蔵野新田世話役として幕府に取り立てられたものだ。各地から集まった百姓たちから協同の力を引き出したところに成功のカギはあった▼

平右衛門は武蔵野新田開発の後、木曽三川の治水工事に当たり、さらに石見銀山の再興に取り組んだ。平右衛門の思い・行動に共感する有志で顕彰会を立上げ、毎年、平右衛門ゆかりの地でフェスタを開催してきたが、9回目となる今年は岐阜県の瑞穂市で開催。前半は平右衛門に絡めての歴史講話二つ、後半は「瑞穂市における農あるまちづくり」をテーマにしたのパネルディスカッション。JAぎふの岩佐組合長とともに、岩佐組合長の紹介による笑顔を守る会の藤原会長を含めた4人が登壇。地域農業の実情を踏まえての地消地産や独自栽培基準「ぎふラル」による環境にやさしい農業等へのJAぎふのチャレンジ、マルシェ開催とともに農体験や援農等も含めた消費者の活動展開等の報告もいただき、参加者の地域農業への関心をかきたてる貴重な場となった▼今回は初めての地方でのフェスタ開催となったが、全農を通じて全農岐阜県本部を紹介いただき、一緒にJAぎふの協力を仰ぐことによってパネルディスカッションは可能となった。また設営等でワーカーズコープ東海事業本部、印刷等で日本社会連帯機構の全面的支援を得るなど、協同の力、連携の素晴らしさを実感するいい機会ともなった。

(土着菌)